

かきのみ園だより

<令和4年9月>

渋谷区山谷かきのみ園



強くてたくましい根っこ

施設長・園長 森山 未来

蝉の声の大合唱と入れ替わるように、涼しげな虫の声が聞こえてくるようになりました。8月中には猛暑日が続いて、本当に夏が終わるのだろうか…と体力を奪われるような暑さに翻弄されましたが、9月を迎える今、虫の声だけでなく爽やかな秋風も届くようになっていきます。季節の移ろいを確かに感じる事ができ、ほっとしています。

ところで、皆さんは秋の七草というものをご存じでしょうか。オミナエシ、ススキ、キキョウ、ナデシコ、フジバカマ、クズ、ハギが、秋の七草であると言われていますが、この内いくつかの植物を思い浮かべることができるでしょうか。ちなみに、春の七草は、年の初めに無病息災を祈念して七草粥にさせていただくためご存じの方も多いかもかもしれません。一方、秋の七草は、一説によると平安時代の貴族が花野を歩きながら歌を詠むという風流な遊びをしていたことから、後世においても鑑賞するようになったと言われており、食することもないためか、私たちにはあまり馴染みがありません。都会で出会うことは難しい秋の七草ですが、実はかきのみ園では、この中の2種類を愛でることができます。ススキとハギです。園の門付近の鉢植えにひっそりと植わっていますので、興味のある方は見付けてみてください。夕方になると茂みから虫の声も聞こえてくるので、秋の趣を味わうことができるかもしれません。

さて、いよいよ夏休み期間が終わり、子供たち全員での園生活が再開します。コロナ禍の夏休みではありましたが、今年は行動制限もなかったため、久しぶりに帰省をしたり旅行に行ったりしたご家庭も多かったのではないかと思います。「新幹線に乗ったかな？海水浴に行ったかな？キャンプでバーベキューをしたかな？星空を眺めた子もいたかもしれない…」子供たちを迎える前に、私たちも新しい遊びが広がっていくことに期待しながら遊びの環境の準備を進めています。子供たちが夏の間を経験したことを園でも様々な形で取り上げて、遊びに生かしていきたいと考えています。また、夏休み中に教職員で園庭の整備もいたしました。園庭では、主に雑草抜きを行いました。ネコジャラシが生い茂る“虫の原っぱ”でショウリョウバッタを数匹見つけて大興奮いたしました。また、ミカンの木の前根元の暗がりから私の掌とちょうど同じ大きさのヒキガエルが、のっそりと出てきました。子供たちは、これらの小さな生き物たちと対面できるでしょうか。バッタとヒキガエルをそっと逃がしながら、子供たちの「いたぞ～！！」と叫ぶ元気な声が聞こえてくるような気がいたしました。

雑草抜きをしていると、抜いたはずの場所からしばらくすると同じ雑草が生えてきて、生命力の強さに驚かされることがあります。根っこの強さがあれば、地上の環境が変化しても生き延びることができ、目に見えている草の部分が踏まれたりちぎられたりしたとしても、たくましく再生して青々と生い茂っていきます。さらに、雑草の先に咲く小さな花のかわいらしさは、楚々として愛らしく、思わず見入ってしまいます。それぞれに違った魅力があることにも気付かされます。

子供たちの心の根っこは強くたくましく育っているのでしょうか。環境がどのように変化しようとも、しなやかにたくましく自分が自分であり続ける雑草のように、人生の土台となる心の根っこが確かに育まれているのでしょうか。たくましく生きる雑草からも、多くのことを教わる思いがしています。そして、今見えているものはその人の一部分にすぎないということ、後々伸びていく見えていない部分に注目する大切さにも心を留めて、今後もかきのみ園の保育を充実させていきたいと思っています。

